

受 検 番 号	氏 名

令和 3 年度

2 級建築施工管理技術検定 (後期)

第一次検定問題

令和 3 年 11 月 14 日(日)

[注 意 事 項]

- ページ数は、表紙を入れて 17 ページです。
- 試験時間は、10 時 15 分から 12 時 45 分です。
- 問題の解答の仕方は、次によってください。
 - [No. 1]～[No. 14]までの 14 問題のうちから、9 問題を選択し、解答してください。
 - [No. 15]～[No. 17]までの 3 問題は、全問題を解答してください。
 - [No. 18]～[No. 28]までの 11 問題のうちから、8 問題を選択し、解答してください。
 - [No. 29]～[No. 38]までの 10 問題は、全問題を解答してください。
 - [No. 39]～[No. 42]までの 4 問題は、全問題を解答してください。
 - [No. 43]～[No. 50]までの 8 問題のうちから、6 問題を選択し、解答してください。
- 選択問題は、解答数が指定数を超えた場合、減点となりますから注意してください。
- 問題番号 [No. 1]～[No. 38]、[No. 43]～[No. 50]は、四肢一択式です。

正解と思う肢の番号を 1 つ選んでください。
- 問題番号 [No. 39]～[No. 42]は、施工管理法の応用能力問題で四肢二択式です。

正解と思う肢の番号を 2 つ選んでください。

なお、選んだ肢の番号が 2 つとも正しい場合のみ正答となります。
- 解答の記入にあたっては、次によってください。
 - 解答は、選んだ番号を右のマーク例に従って、

[HB] の黒鉛筆か黒シャープペンシルで塗りつぶしてください。
 - マークを訂正する場合は、消しゴムできれいに消して訂正してください。
- 解答用紙は、雑書きしたり、汚したり、折り曲げたりしないでください。
- この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
- 漢字に付したふりがなは補足であり、異なる読み方の場合があります。
- この問題用紙は、第一次検定の試験終了時刻まで在席した場合に限り、持ち帰りを認めます。

途中退席する場合は、持ち帰りできません。

※ 問題番号 [No. 1] ~ [No. 14] までの14問題のうちから、9問題を選択し、解答してください。

[No. 1] 通風及び換気に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 風圧力による自然換気では、換気量は開口部面積と風速に比例する。
2. 室内外の温度差による自然換気では、給気口と排気口の高低差が大きいほど換気量は大きくなる。
3. 室内における必要換気量は、在室人数によらず一定になる。
4. 室内を風が通り抜けることを通風といい、もっぱら夏季の防暑対策として利用される。

[No. 2] 日照及び日射に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 日照時間は、日の出から日没までの時間をいう。
2. 太陽放射の光としての効果を重視したものを日照といい、熱的效果を重視したものを日射という。
3. 1年を通して終日日影となる部分を、永久日影という。
4. 天空日射量とは、日射が大気中で散乱した後、地表に到達する日射量をいう。

[No. 3] 採光及び照明に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 室内のある点における昼光率は、時刻や天候によって変化する。
2. 昼光率は、室内表面の反射の影響を受ける。
3. 全天空照度は、直射日光による照度を含まない。
4. モデリングは、光の強さや方向性、拡散性などを視対象の立体感や質感の見え方によって評価する方法である。

[No. 4] 鉄筋コンクリート造の構造形式に関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. シェル構造は、薄く湾曲した版を用いた構造で、大きな空間をつくることができる。
2. 壁式鉄筋コンクリート構造は、室内に梁形や柱形が突き出ないため、室内空間を有効に利用できる。
3. フラットスラブ構造は、鉄筋コンクリートの腰壁が梁を兼ねる構造で、室内空間を有効に利用できる。
4. ラーメン構造は、柱と梁の接合部を剛接合とした骨組で、自由度の高い空間をつくることができる。

[No. 5] 鉄骨構造の一般的な特徴に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. トラス構造は、比較的細い部材による三角形を組み合わせて構成し、大きな空間をつくることができる。
2. H形鋼の大梁に架けられる小梁には、大梁の横座屈を拘束する働きがある。
3. 柱脚の形式には、露出形式、根巻き形式、埋込み形式がある。
4. 鋼材は不燃材料であるため、骨組は十分な耐火性能を有する。

[No. 6] 鉄骨構造に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ダイアフラムは、梁から柱へ応力を伝達するため、仕口部に設ける。
2. エンドタブは、溶接時に溶接線の始末端に取り付けられる。
3. 丸鋼を用いる筋かいは、主に引張力に働く。
4. スチフナーは、ボルト接合の継手を構成するために、母材に添える。

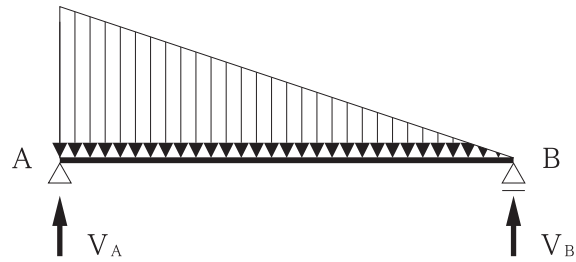
[No. 7] 基礎杭に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 既製コンクリート杭の埋込み工法のひとつで、杭の中空部を掘削しながら杭を圧入する中掘工法は、比較的杭径の大きなものの施工に適している。
2. 拡張断面を有する遠心力高強度プレストレストコンクリート杭（ST杭）は、拡張部を杭の先端に使用する場合、大きな支持力を得ることができる。
3. 摩擦杭は、硬い地層に杭先端を貫入させ、主にその杭の先端抵抗力で建物を支持する。
4. 場所打ちコンクリート杭は、地盤を削孔し、その中に鉄筋かごを挿入した後、コンクリートを打ち込んで造る。

[No. 8] 建築物の構造設計における荷重及び外力に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 床の構造計算をする場合と大梁の構造計算をする場合では、異なる単位床面積当たりの積載荷重を用いることができる。
2. 屋根面における積雪量が不均等となるおそれのある場合、その影響を考慮して積雪荷重を計算する。
3. 風圧力は、その地方における過去の台風の記録に基づいて定められた風速に、風力係数のみを乗じて計算する。
4. 地上階における地震力は、算定しようとする階の支える荷重に、その階の地震層せん断力係数を乗じて計算する。

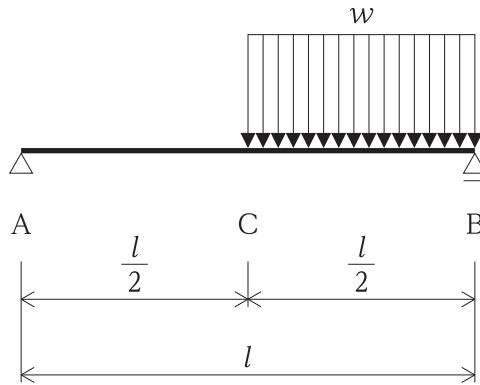
[No. 9] 図に示す単純梁 AB に等変分布荷重が作用するとき、支点 A の垂直反力 V_A 及び
支点 B の垂直反力 V_B の大きさの比率として、正しいものはどれか。



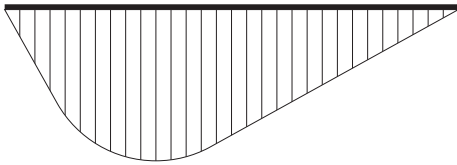
1. $V_A : V_B = 1 : 1$
2. $V_A : V_B = 2 : 1$
3. $V_A : V_B = 3 : 1$
4. $V_A : V_B = 4 : 1$

[No. 10] 図に示す単純梁 AB の BC 間に等分布荷重 w が作用したときの曲げモーメント図として、正しいものはどれか。

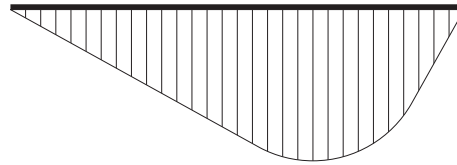
ただし、曲げモーメントは、材の引張側に描くものとする。



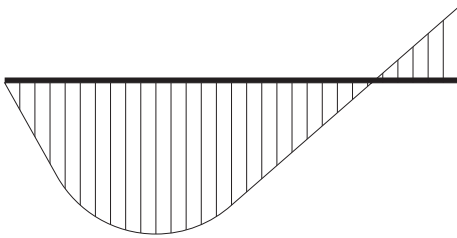
1.



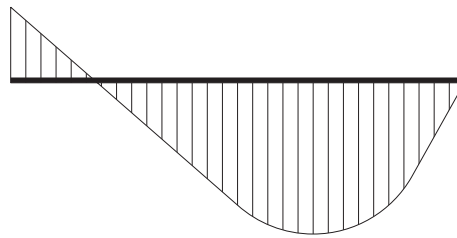
2.



3.



4.



[No. 11] 構造用鋼材に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 建築構造用圧延鋼材 SN 400 の引張強さの下限値は、 400 N/mm^2 である。
2. 引張強さは $250 \sim 300 \text{ }^\circ\text{C}$ で最大となり、それ以上の高温になると急激に低下する。
3. 線膨張係数は、約 $1.2 \times 10^{-5} (1/^\circ\text{C})$ である。
4. ヤング係数は、約 $3.14 \times 10^5 \text{ N/mm}^2$ である。

[No. 12] 木材の樹種に関する一般的な圧縮強度の比較として、適当なものはどれか。

1. スギ < ヒノキ < ケヤキ
2. ヒノキ < スギ < ケヤキ
3. ケヤキ < スギ < ヒノキ
4. ヒノキ < ケヤキ < スギ

[No. 13] 日本産業規格 (JIS) に規定する建具の性能試験方法に関する記述として、不適当なものはどれか。

1. 耐風圧性の性能試験では、変位及びたわみを測定する。
2. 遮音性の性能試験では、音響透過損失を測定する。
3. 結露防止性の性能試験では、熱貫流率を測定する。
4. 遮熱性の性能試験では、日射熱取得率を測定する。

[No. 14] 防水材料に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 金属系シート防水のステンレスシート又はチタンシートは、連続溶接することで防水層を形成する。
2. ウレタンゴム系の塗膜防水材は、塗り重ねることで連続的な膜を形成する。
3. アスファルトプライマーは、下地と防水層の接着性を向上させるために用いる。
4. 防水モルタルに混入した防水剤は、塗り付ける下地に浸透して防水効果を高めるために用いる。

※ 問題番号 [No. 15] ~ [No. 17] までの3問題は、全問題を解答してください。

[No. 15] 屋外排水工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 内法が600 mmを超え、かつ、深さ1.2 mを超える雨水用排水柵には、足掛け金物を取り付けた。
2. 雨水用排水柵及びマンホールの底部には、深さ50 mmの泥だめを設けた。
3. 地中埋設排水管の長さが、その内径又は内法幅の120倍を超えない範囲内で、柵又はマンホールを設けた。
4. 排水管を給水管に平行して埋設する場合、給水管を上方にして、両配管は500 mm以上のあきを設けた。

[No. 16] LEDランプに関する一般的な記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 他のランプ類に比べ耐熱性が低いため、高温にさらされないよう、発熱体の周辺への設置は避ける。
2. 他のランプ類に比べ寿命が短いため、高い天井等、ランプの交換がしにくい場所への設置は避ける。
3. 光線に紫外線をほとんど含まないため、屋外照明に使用しても虫が寄り付きにくい。
4. 光の照射方向に熱をほとんど発しないため、生鮮食料品の劣化を助長しない。

[No. 17] 建築設備とそれに関連する用語の組合せとして、最も関係の少ないものはどれか。

1. 給水設備 ————— バキュームブレーカー
2. 排水設備 ————— 通気管
3. ガス設備 ————— マイコンメーター
4. 空気調和設備 ————— バスダクト

※ 問題番号 [No. 18] ~ [No. 28] までの11問題のうちから、8問題を選択し、解答してください。

[No. 18] 遣方及び墨出しに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ベンチマークは、移動するおそれのない既存の工作物に2箇所設けた。
2. 2階より上階における高さの基準墨は、墨の引通しにより、順次下階の墨を上げた。
3. 水貫は、水杭に示した一定の高さに上端を合わせて、水杭に水平に取り付けた。
4. 鋼製巻尺は、同じ精度を有する巻尺を2本以上用意して、1本は基準巻尺として保管した。

[No. 19] 地業工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 土間コンクリートに設ける防湿層のポリエチレンフィルムは、砂利地業の直下に敷き込んだ。
2. 砂利地業の締固めによるくぼみが生じた場合は、砂利を補充して表面を平らにした。
3. 砂利地業に、砕砂と砕石の混合した切込砕石を使用した。
4. 捨てコンクリート地業は、基礎スラブ及び基礎梁のセメントペーストの流出等を防ぐために行った。

[No. 20] 型枠工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 内柱の型枠の加工長さは、階高からスラブ厚さとスラブ用合板せき板の厚さを減じた寸法とした。
2. 柱型枠の足元は、型枠の変形防止やセメントペーストの漏出防止等のため、栈木で根巻きを行った。
3. 壁の窓開口部下部の型枠に、コンクリートの盛り上がりを防ぐため、端部にふたを設けた。
4. 床型枠用鋼製デッキプレート（フラットデッキ）を受ける梁の側型枠は、縦栈木で補強した。

[No. 21] 型枠の最小存置期間に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの圧縮強度による場合、柱とスラブ下のせき板は同じである。
2. コンクリートの圧縮強度による場合、壁とはり側のせき板は同じである。
3. コンクリートの材齢による場合、柱と壁のせき板は同じである。
4. コンクリートの材齢による場合、基礎と壁のせき板は同じである。

[No. 22] 高力ボルト接合に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ナット側の座金は、座金の内側面取り部がナットに接する側に取り付ける。
2. 高力ボルト接合部のフィラープレートは、両面とも摩擦面処理を行う。
3. 摩擦面の錆の発生状態は、自然発錆による場合、鋼材の表面が一樣に赤く見える程度とする。
4. ボルトの締付けは、ボルト群ごとに継手の周辺部より中央に向かう順序で行う。

[No. 23] 加硫ゴム系シート防水接着工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. プライマーを塗布する範囲は、その日にシートを張り付ける範囲とした。
2. 下地への接着剤の塗布は、プライマーの乾燥後に行った。
3. シートは、接着剤を塗布後、オープンタイムを置かずに張り付けた。
4. 仕上塗料塗りは、美観と保護を目的に行った。

[No. 24] 金属製折板葺の工法に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 嵌合形折板は、折板を仮葺せずに本締めを行う。
2. はぜ締め形折板は、本締めの前にタイトフレームの間を1m程度の間隔で部分締めを行う。
3. けらばの変形防止材には、折板の3山ピッチ以上の長さのものを用いる。
4. タイトフレームと下地材との接合は、スポット溶接とする。

[No. 25] コンクリート壁下地のセメントモルタル塗りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 下塗り、中塗り、上塗りの各層の塗り厚は、6mm程度とした。
2. 下塗りは、吸水調整材塗りの後、3時間経過後に行った。
3. 下塗り用の砂は、ひび割れを防止するため、粒度が粗いA種の砂を用いた。
4. 吸水調整材は、下地とモルタルの接着力を増強するため、厚膜となるように十分塗布した。

[No. 26] 建具金物に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. モノロックは、押しボタンやシリンダーが設けられており、内外の握り玉の同一線上で施解錠することができる。
2. ピボットヒンジは、床に埋め込まれる扉の自閉金物で、自閉速度を調整することができる。
3. 空錠は、鍵を用いずに、ハンドルでラッチボルトを操作することができる。
4. 本締め錠は、鍵又はサムターンでデッドボルトを操作することができる。

[No. 27] 壁のせっこうボード張りに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. ボードを突付けとせず隙間を開けて底目地を取る目透し工法で仕上げる壁は、スクエアエッジのボードを使用した。
2. 鋼製下地に張り付ける場合のドリリングタッピンねじの頭は、仕上げ面の精度確保のため、ボード面と同面となるように締め込んだ。
3. 鋼製下地に張り付ける場合のドリリングタッピンねじの留付け間隔は、ボードの中間部より周辺部を小さくした。
4. ボードの重ね張りは、上張りとは下張りのジョイント位置が同位置にならないように行った。

[No. 28] 外部仕上げ改修工事に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 既存防水層撤去後の下地コンクリート面の軽微なひび割れは、新規防水がアスファルト防水のため、アスファルト防水用シール材により補修した。
2. コンクリート下地面の複層仕上塗材の既存塗膜の劣化部は、高圧水洗工法にて除去した。
3. 既存露出アスファルト防水層の上に、アスファルト防水熱工法にて改修するため、下地調整材としてポリマーセメントモルタルを用いた。
4. 外壁石張り目地のシーリング材の劣化した部分を再充填工法にて改修するため、既存シーリング材を除去し、同種のシーリング材を充填した。

※ 問題番号 [No. 29] ~ [No. 38] までの 10 問題は、全問題を解答してください。

[No. 29] 事前調査に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 既製杭の打込みが予定されているため、近接する工作物や舗装の現況の調査を行うこととした。
2. 掘削中に地下水を揚水するため、周辺の井戸の使用状況の調査を行うこととした。
3. 工事予定の建物による電波障害に関する調査は済んでいたため、タワークレーン設置による影響の調査を省くこととした。
4. 地中障害物を確認するため、過去の土地利用の履歴について調査を行うこととした。

[No. 30] 仮設計画に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 規模が小さい作業所のため、守衛所を設けず、警備員だけを出入口に配置することとした。
2. 作業員詰所は、職種数や作業員の増減に対応するため、大部屋方式とすることとした。
3. 下小屋は、材料置場の近くに設置し、電力及び水道等の設備を設けることとした。
4. 鋼板製仮囲いの下端には、雨水が流れ出すように隙間を設けることとした。

[No. 31] 工事現場における材料の保管に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. アスファルトルーフィングは、屋内の乾燥した場所に平積みで保管する。
2. ALC パネルは、台木を水平に置いた上に平積みで保管する。
3. 巻いた壁紙は、くせが付かないように屋内に立てて保管する。
4. アルミニウム製建具は、平積み避け、縦置きにして保管する。

[No. 32] 工程計画の立案段階で考慮すべき事項として、最も不適当なものはどれか。

1. 敷地周辺の上下水道やガス等の公共埋設物を把握する。
2. 敷地内の既存埋設物の状況を把握する。
3. 全ての工種別の施工組織体系を把握する。
4. 敷地における騒音及び振動に関する法的規制を把握する。

[No. 33] バーチャート工程表に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 縦軸に工事項目を、横軸に月日を示し、各作業の開始から終了までを横線で表したものである。
2. 主要な工事の節目をマイルストーンとして工程表に付加すると、工程の進捗状況が把握しやすくなる。
3. 各作業の相互関係が表されていないため、工期に影響する作業がどれであるか掴みにくい。
4. 工程表に示す作業を増やしたり、作業を細分化すると、工程の内容が把握しやすくなる。

[No. 34] 施工品質管理表（QC工程表）の作成に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. 工種別又は部位別に作成する。
2. 管理項目は、目指す品質に直接関係している要因から取りあげる。
3. 管理項目は、品質に関する重要度の高い順に並べる。
4. 管理項目ごとに、管理担当者の分担を明確にする。

[No. 35] トルシア形高力ボルトの1次締め後に行うマーキングに関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. マークのずれによって、軸回りの有無を確認できる。
2. マークのずれによって、トルク値を確認できる。
3. マークのずれによって、ナットの回転量を確認できる。
4. マークのずれによって、共回りの有無を確認できる。

[No. 36] コンクリートの試験に関する記述として、最も不適当なものはどれか。

1. フレッシュコンクリートの温度測定は、その結果を1℃単位で表示する。
2. 圧縮強度の試験は、コンクリート打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ、150 m³以下にほぼ均等に分割した単位ごとに行う。
3. スランプ試験は、1 cm単位で測定する。
4. スランプ試験時に使用するスランプコーンの高さは、300 mmとする。

[No. 37] 建築工事における危害又は迷惑と、それを防止するための対策の組合せとして、最も不適当なものはどれか。

1. 投下によるくずやごみの飛散 ————— ダストシュートの設置
2. 工事用車両による道路の汚れ ————— 沈砂槽の設置
3. 高所作業による工具等の落下 ————— 水平安全ネットの設置
4. 解体工事による粉塵の飛散 ————— 散水設備の設置

[No. 38] 特定元方事業者が行うべき安全管理に関する記述として、「労働安全衛生法」上、誤っているものはどれか。

1. 毎作業日に、作業場所を巡視すること。
2. 足場の組立て作業において、材料の欠点の有無を点検し、不良品を取り除くこと。
3. 関係請負人が行う安全教育に対して、安全教育に使用する資料を提供すること。
4. クレーン等の運転についての合図を統一的に定めること。

※ 問題番号 [No. 39] ~ [No. 42] までの4問題は応用能力問題です。全問題を解答してください。

[No. 39] 鉄筋の加工及び組立てに関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 鉄筋の折曲げ加工は、常温で行う。
2. 壁筋は、鉄筋相互の交点の半数以上を結束する。
3. 鉄筋相互のあきの最小寸法は、鉄筋の強度によって決まる。
4. 鉄筋末端部のフックの余長の最小寸法は、折曲げ角度が大きいほど長くなる。

[No. 40] 在来軸組構法における木工事に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 土台を固定するアンカーボルトは、土台の両端部や継手の位置、耐力壁の両端の柱に近接した位置に設置した。
2. 根太の継手は、大引の心を避けて突付け継ぎとし、釘打ちとした。
3. 火打梁は、柱と梁との鉛直構面の隅角部に斜めに入れた。
4. 内装下地や造作部材の取付けは、屋根葺き工事が終わった後に行った。

[No. 41] セメントモルタルによるタイル後張り工法に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 密着張りにおいて、タイルの張付けは、下部から上部にタイルを張った。
2. 改良積上げ張りにおいて、小口タイルの張付けは、1日の張付け高さを1.5mとした。
3. モザイクタイル張りのたたき押えは、紙張りの目地部分がモルタルの水分で濡れてくるまで行った。
4. 改良圧着張りにおいて、張付けモルタルの1回に塗り付ける面積は、タイル工1人当たり 3m^2 とした。

[No. 42] 塗装工事に関する記述として、不適当なものを2つ選べ。

1. 強溶剤系塗料のローラーブラシ塗りに、モヘアのローラーブラシを用いた。
2. オイルステイン塗りの色濃度の調整は、シンナーによって行った。
3. モルタル面の塗装に、合成樹脂調合ペイントを用いた。
4. 壁面をローラーブラシ塗りとする際、隅やちり回りなどは、小刷毛を用いて先に塗布した。

※ 問題番号 [No. 43] ~ [No. 50] までの8問題のうちから、6問題を選択し、解答してください。

[No. 43] 用語の定義に関する記述として、「建築基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 設計者とは、その者の責任において、設計図書を作成した者をいう。
2. コンビニエンスストアは、特殊建築物ではない。
3. 建築物に関する工事用の仕様書は、設計図書である。
4. 駅のプラットホームの上家は、建築物ではない。

[No. 44] 地上階にある次の居室のうち、「建築基準法」上、原則として、採光のための窓その他の開口部を設けなくてよいものはどれか。

1. 病院の診察室
2. 寄宿舎の寝室
3. 有料老人ホームの入所者用談話室
4. 保育所の保育室

[No. 45] 建設業の許可に関する記述として、「建設業法」上、誤っているものはどれか。

1. 解体工事業で一般建設業の許可を受けている者は、発注者から直接請け負う1件の建設工事の下請代金の総額が4,000万円の下請契約をすることができない。
2. 建築工事業で一般建設業の許可を受けている者は、発注者から直接請け負う1件の建設工事の下請代金の総額が6,000万円の下請契約をすることができない。
3. 建設業を営もうとする者は、すべて、建設業の許可を受けなければならない。
4. 建設業の許可を受けようとする者は、営業所の名称及び所在地を記載した許可申請書を国土交通大臣又は都道府県知事に提出しなければならない。

[No. 46] 建設工事の請負契約書に記載しなければならない事項として、「建設業法」上、定められていないものはどれか。

1. 工事内容及び請負代金の額
2. 工事の履行に必要な建設業の許可の種類及び許可番号
3. 各当事者の履行の遅滞その他債務の不履行の場合における遅延利息、違約金その他の損害金
4. 請負代金の全部又は一部の前金払の定めをするときは、その支払いの時期及び方法

[No. 47] 労働契約に関する記述として、「労働基準法」上、誤っているものはどれか。

1. 使用者は、労働することを条件とする前貸の債権と賃金を相殺することができる。
2. 労働者は、使用者より明示された労働条件が事実と相違する場合においては、即時に労働契約を解除することができる。
3. 使用者は、労働者が業務上の傷病の療養のために休業する期間及びその後30日間は、原則として解雇してはならない。
4. 労働条件は、労働者と使用者が、対等の立場において決定すべきものである。

[No. 48] 事業者が、新たに職務に就くことになった職長に対して行う安全衛生教育に関する事項として、「労働安全衛生法」上、定められていないものはどれか。

ただし、作業主任者を除くものとする。

1. 労働者の配置に関すること
2. 異常時等における措置に関すること
3. 危険性又は有害性等の調査に関すること
4. 作業環境測定の実施に関すること

[No. 49] 次の記述のうち、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」上、誤っているものはどれか。

1. 工作物の新築に伴って生じた紙くずは、一般廃棄物である。
2. 建設工場の現場事務所から排出された新聞、雑誌等は、一般廃棄物である。
3. 工作物の除去に伴って生じたコンクリートの破片は、産業廃棄物である。
4. 工作物の新築に伴って生じたゴムくずは、産業廃棄物である。

[No. 50] 消防用設備等の種類と機械器具又は設備の組合せとして、「消防法」上、誤っているものはどれか。

1. 警報設備 ————— 自動火災報知設備
2. 避難設備 ————— 救助袋
3. 消火設備 ————— 連結散水設備
4. 消防用水 ————— 防火水槽